

## 平成30年度 学校評価総括表

## 奈良県立高取国際高等学校

教育目標	「さとく きよく ゆたかに たくましく」の校訓を指針とし、磨かれた知性と豊かな国際感覚を身につけ、実社会を生き抜く強い心と人を大切にするあたたかい心をあわせ持つ生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針	○自律した眞の国際人を育て、地域に信頼され、愛される学校づくり。 ○常に理性を働かせ、異なるものの見方や考え方を認め合い、学び合い、心を磨き、生徒達が輝く学校づくり。				
29年度の成果と課題	本年度の重点目標				B
開校以来の挨拶運動、清掃奉仕活動などの伝統を継承し、生徒が輝く学校の確立に努めた。奈良県中南部の中学生数が減少する中、本校の取組が一定評価いただいていると認識するが、「夢の実現」「笑顔があふれる元気な学校」を実現すべくチーム高取で取り組んでいきたい。	○ 夢に向かって一生懸命に努力する生徒、礼節を重んじ人を大切に思う生徒を育成する。 ○ 何事にも前向きに取り組み、学習意欲を高め、自らの可能性を信じて進路実現を図る生徒を育成する。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
総務	育友会、文化・体育後援会と緊密な連携を図り、学校行事への積極的な参加と活動の充実に取り組む。同窓会組織の充実を目指す。	育友会、文化・体育後援会の各役員の方々との連絡を密にする。学校行事が成功裏に終わるよう育友会等役員の方々の理解と協力を得ながら取り組んでいく。学校行事への育友会会員の方々の出席を増やす。同窓会会長と連携を密にして、同窓会の充実を目指す。育友会役員会の出席率60%以上でA、40%以上でB、20%以上でC、20%未満でD。	B	育友会、文化・体育後援会の役員の方々には、体育祭、文化祭、ロードレース大会などの学校行事に積極的に参加し熱心に活動してもらいたい。育友会は66%、文化祭は83%、奉仕活動には85%、ロードレース大会には55%の役員が参加いただいた。年間回の役員会への参加は70%前後あり、目標を達成できることができた。広報誌「たばね」の編集から発行にも熱心であった。一方、育友会総会には約10%にどまつた。同窓会総会にはその年の卒業生が中心に会を進めてくれた。購買部では生徒のニーズに対応できた。	特に評議員の方からはご意見をいただきながら、育友会、文化・体育後援会への役員の更なる参加を促していく、その活動が生徒の学校生活により密着したものにしていきたい。同窓会やたかとり会の活動の充実を図り、繋がりを強められるようにしたい。
教務	生徒の進路実現を図るために、学習指導の効果を高め、生徒の学力の定着と充実に努める。	わかりやすく学習意欲が高まるような授業ができるように指導力を高める。そのため、年2回授業研究週間を持ち、教科としては研究授業を行い、授業改善に努める。生徒対象アンケートで「授業の目標やポイントがわかりやすく、学ぶ意欲がわく授業ですか」の回答が75%以上でA、65%以上でB、55%以上でC、55%未満でD。	C	今年度も2回授業研究週間を持つことができた。しかし、教科ごとの授業研究は一部の教科でしか実施できなかった。生徒対象アンケートの回答は中間アンケートより7.7ポイント上昇したが最終結果は62.9%であった。生徒の授業の理解度を確認できるように、観点別評価に各教科取り組んでいるがうまくフィードバックしていくなければならない。	・主体的な学びを高めるためには、生徒と教師が授業と一緒に樂いていくことが大切である。 ・生徒の学習意欲を高めるため、生徒が興味関心を持つ課題を見つける必要がある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	自発的な挨拶の更なる励行を促し、携帯電話の使用ルールとマナーの徹底をはかる。登下校、校内での自発的な挨拶の励行を促す。また登下校のマナー徹底と安全確保のため年間を通して週2回以上の登下校指導を実施する。学校の決まりを守る生活をさせたり、きめ細かい指導の徹底を図り、校内アンケート「学校の決まりを守っている」の回答を95%以上であればA、90%以上でB、85%以上でC、85%未満でD。	B	生徒アンケートの結果、94%(1回目94.8%、2回目93.2%)の生徒が「学校の決まりをきちんと守っている」と回答している。昨年度より2%増加した。服装・頭髪・校内での携帯使用禁止などさまざまなルールを守ることに関して、1年間の取組としては一定の成果はあるが、学校生活に慣れが出てくると氣の緩みがでてくるようである。本校生として自覚をもたせ、責任をもって行動できるように指導する必要がある。特に、登下校時のマナーとして、安全面の上からイヤホンや歩きスマホの防止に努める必要がある。挨拶においては、しない、できない生徒も多く、次年度への課題である。	・「挨拶」について、先生方から積極的に・とありますように、形式よりその時の「声」の調子や表情などで元気がないな、体調悪いな、様子がわかると思います。先生自身の様子も生徒たちに知つてもらうことが大切だと思います。・指導の目的は、規範意識や順法精神などを育てるることにあることを確認すること。なお、目的が同じなら、教員によって指導、支援の方法、迫り方は異なつても良いと思います。共通認識は必要ですが、同一行動まで求めないこと。教員の個性を發揮して指導した方がいいと。 ・問題を抱える度合いに関わらず、最後は自分で自分を抱える自信と勇気を持たせる方向でサポートを続ける事が将来のためになる。
特別活動	学校行事や委員会活動、部活動への自主的・積極的な参加を通して生き生きとした学校生活を実現し、豊かで創造的な自己形成を図ることのできる生徒を育成する。	部活動の活性化を図り、加入生徒数の増加を図る。加入者数調査において加入率75%以上でA、60%以上でB、50%以上でC、50%未満でD。	B	部活動の加入率は、4月末は71.2%で昨年度の76.2%より減っている。また、12月末での加入率は66.5%で、昨年度に比べ途中退部の生徒が増えた。地域主催の行事については、3年目を迎えた飛鳥駅前活性化会議も2回持ち、9月に「飛鳥駅前コンサート」を行ない、今年は参加者へのアンケートも実施した。また、「飛鳥光の回廊」「たかとり城祭り」にも、昨年以上に積極的に参加できた。地域行事や協同奉仕活動などの参加依頼に対して75%以上参加することができた。	例年のクラブ勧誘ポスターやビラ配布を行うとともに、1年生への部活動紹介をさらに工夫し、丁寧なクラブ勧誘を行う。生徒会奉仕活動は体育系クラブ員だけではなく、文化系クラブ員の参加も増えてきた。地域行事への参加も生徒会役員やボランティア部を中心で参加してきたが、来年度はさらに参加する生徒が増えるようクラス掲示等の工夫を行っていく。
進路指導	進路意識を高め、進路希望実現へ一生懸命に考え積極的な行動ができるように促す。	進路意識の高揚に向けて、学習講座・講演会・ガイダンス・相談会・保護者説明会等を実施する。入試改革の情報等をホームページやプリントで発信し、生徒・保護者への啓発に努める。保護者アンケートの「生徒や保護者に進路に関する情報がよく提供されていますか」という質問に対し「そう思う」「ややそう思う」の合計が75%以上でA、65%以上でB、60%以上でC、60%未満でD。	A	保護者アンケートの結果は、前年比7.4ポイント増の75.9%であった。各行事において、内容の見直しにより充実を図った。1・2年生保護者説明会は学年別に実施したことにより内容が的確に伝わった。キャリアレポートは長期休業ごとに変更し、目標設定が明確になるようにした。外部検定利用や専門科目入試の質問も多くなり、多様な入試制度や多岐にわたる進路希望に合った情報提供の成果と考える。入試の知識が増すと早期に決まる入試を探すのでAO・指定校と早期決定の傾向が強まっている。	これまでご指摘いただいた、生徒が将来どう生きるか、どんな社会を築くかを考え自己実現する力をつけるようにするために、出口から考え、保護者説明会等を充実させ、各行事の中身の充実させたことに関して高評価をいただけた。生徒個々の目標設定にきめ細かく対応できるように多くの人の意見を参考にしながら、進めていきたい。
人権教育	性同一性障害はじめとするセクシャルマイノリティなど、新しい人権課題に積極的に取り組む。	全校人権講演会、人権作文発表会などの人権教育に関する学校行事や人権ホームページなどの充実を目指す。特に新しい人権課題のひとつである性同一性障害はじめとするセクシャルマイノリティの問題を積極的に取り上げる。学生会の生徒対象アンケートで、「高校に入つていろいろなことを学び、中学生のときより人権意識が高くなったと思いますか。」という質問に対して、昨年度より「そう思う」「ややそう思う」の合計が前年度より5%以上増加していればA、0~5%増加ならばB、0~5%減少ならばC、5%以上減少ならばD。	A	生徒アンケートの結果は前年比8.4ポイント増の81.1%であった。各項目別にみると、人権講演会が前年比25.8ポイント増の89.1%、人権作文発表会が前年比19.7ポイント増の82.9%、各学級での人権HRが前年比14ポイント増の73.0%、「人権を確かめあう日」の取り組みが前年比7.2ポイント増の68.4%であった。新しい人権課題のひとつである性同一性障害はじめとするセクシャルマイノリティの問題を積極的に取り上げたことが高い興味・関心を呼び、人権意識の向上につながつたものと思われる。	評議員の方からは「セクシャルマイノリティの取り組みは時代にマッチした課題で、国際教育の観点からも高く評価できる。」とのご意見をいただきました。今後もこの問題について継続的に取り組みをすすめるとともに、さら新しい人権課題を積極的に取り上げて、生徒の興味・関心につなげ、人権意識に向上に努めていきたい。
文化図書	文化的行事への積極的な参加と、読書に親しみことで、実社会を生き抜く力や、豊かな自己実現を図る態度を養う。また、身近な伝統文化に親しみことで、眞の国際人たる自覚を持たせる。	文化祭への自主的かつ積極的な参加を促す。読書会やかるた大会などの行事を充実させ、文化に対する興味・関心を高める。朝の読書や図書だよりの発行を通して読書習慣を身につけてさせる。文化祭・かるた大会・朝の読書などのアンケート結果で全体の満足度が85%以上をA、70%以上をB、60%以上をC、60%未満をD。また、図書室の利用者を増加させ、図書の貸出件数を対昨年比10%増加を目標とする。	B	今年の文化祭は曜日の並びの関係で昨日以上に準備が慌ただしかったが、93.6%の生徒が有意だだと回答している。かるた大会は78.4%が有意義と答えているが、歌の暗譜等の準備34.5%しかできない。朝の読書は89.9%の生徒がきちんと取り組めていると回答しているが、読書のきっかけになると答えたのは65.5%である。図書貸出件数は対前年度比8%減となっている。「朝の読書」の期間中はしっかり取り組めているものの、普段からの読書の習慣が身についているとは言いがたく、それをどう指導するかが課題として残る。	図書の貸出実績を上げることも課題ではあるが、それ以上に、生徒たちが質の高い文章や素晴らしい書籍に触れることができるよう書評等の評価で促進するため「図書館だより」等でのPRのみならず、教科やHR指導等においても、より一層図書の紹介をしていただけるようにコラボした。次年度は図書委員会対象でビリオバトルができるように計画したい。
健康教育	生涯にわたって運動をする力を身につけさせ、健康と安全を維持できる力を育成する。自己的健康に興味関心を持ち、生涯にわたり健康を保持増進できる実践力を身につける。	運動に主体的に取り組むことにより、自らの健康管理ができる能力を育てる。意欲を高める学校行事になるようロードレース大会に工夫を加え、不参加率が全体の5%未満A、10%未満はB、15%未満はC、15%以上はDとする。自己の健康に興味関心を持ち、健康安全に学校生活および人生を送る実践力をつけるため、生徒定期健康診断での結果、受診が必要な生徒の受診率の向上を目指す。受診率が40%以上でA、30%以上でB、20%以上でC、20%未満でDとする。	B	ロードレース大会では、インフルエンザの大流行により、生徒の健康を考慮し急遽公欠規定を設け、1週間以内の発症者は全て公欠とした。そのため公欠者を除いた不参加率では、第1学年は6%、第2学年は4%となりました。健康を保ち参加した生徒は、非常に良い取り組み方であり、大会自身も好天に恵まれ大きな事故もなく終了できた。定期健康診断の結果、受診が必要な生徒の受診率は、42%（1月末現在）と昨年より大きく向上した。健康に対する意識の向上が見て取れる。	体育の授業の、長距離走においての取り組みを見てみると、第1学年・第2学年とも活発さが感じられた。授業における啓発の工夫により、ロードレース大会の取り組み方も向上したと考えられる。受診が必要な生徒の受診率向上においては、三者面談や保健便りを通じて本人並びに保護者に対して工夫した結果、大きな向上につながったと考えられる。
国際教育	積極的に異文化に触れることによって、自國（自分）以外の他の者のものの見方や考え方を尊重できる生徒を育成する。それにより、多文化共生社会、国際社会で活躍できる生徒の数を増やす。	生徒が異文化に触れる機会を昨年度（前回）より増やす。具体的には、「短期・長期の訪日団および留学生の受け入れ件数」「オーストラリア語学研修、フランス姉妹校長期派遣研修、長期派遣留学参加希望者数」「国際交流行事への参加生徒数」等を目指す。上記方策に対し、3項目で件数が上回ればA、2項目で上回ればB、1項目で上回ればC、どの項目でも上回なければDとする。	B	訪日団（4件）は昨年度並み、長期留学生（2件）の受け入れは昨年度より1件増えた。さらに短期2名、半期1名の学生を受け入れ、生徒が異文化と触れあう機会を増やした。派遣については、昨年度と同じく1名がアメリカに長期留学中である。オーストラリア、フランスへの派遣については、双方とも参加希望者が減少した。異文化体験発表会では、昨年度に続き校外より演者（韓国舞踊団）を招いて異文化への興味を喚起するよう努めた。	評議員の方より「異文化体験発表会」を楽しんでいる」という声をいただいた。今後とも校外から講演者を招くなどして多彩な文化を紹介できる場所をつくりたい。また、「海外からの訪日団との交流の際、スマートを有効に活用しては」とのご意見も頂戴した。ご助言に従い、交流する生徒同士が後々まで「繋がる」よう心がけたい。SNSを交換できる場所を設定するなどしていきたい。